

農・業界

今月の数字

世界112カ国の コメの収量に見る日本の順位 (1961年→2004年)

6位 → 14位

2004年時点のコメの収量ランクと1961年からの収量の伸び率

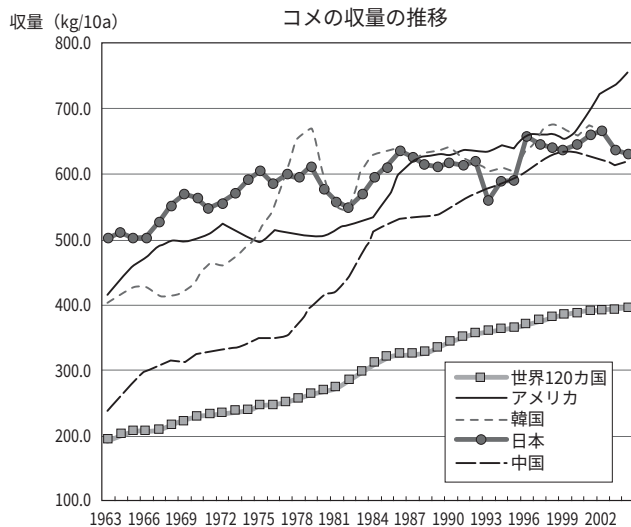
	収量 (kg/10a)		伸び率 (%)
	2004年	1961年	2004/1961
1. エジプト	968.5	505.3	191.7
2. ホンジュラス	836.5	131.4	636.8
3. オーストラリア	823.1	590.0	139.5
4. アメリカ	778.1	382.3	203.5
5. スペイン	741.1	635.7	116.6
6. モロッコ	734.8	300.0	244.9
7. ギリシャ	725.0	367.3	197.4
8. ウクライナ	680.0		
9. 韓国	679.3	414.8	163.8
10. ウルグアイ	677.1	354.1	191.2
11. エルサルバドル	664.3	201.2	330.2
12. ペルー	660.5	409.3	161.4
13. イタリヤ	659.0	567.7	116.1
14. 日本	641.5	487.9	131.5
15. アルゼンチン	626.5	323.9	193.4
16. 中国	626.4	207.9	301.3
17. アゼルバイジャン	571.4		
18. フランス	571.0	405.1	140.9
19. ポルトガル	569.2	467.8	121.7
20. イラン	539.7	214.3	251.9
112カ国合計	400.4	186.7	214.4

(資料) FAO Statistical Databases に基づき作成。

(注) 収穫量を収穫面積で割った数字。

9月27日、農水省は2005年産水稻の作況指数(9月15日現在)が、全国で「102」の「やや良」と公表した。昨年の作況指数(確定値)は98だった。9月15日現在における水稻の作柄は、9月上旬に接近、上陸した台風第14号の影響により九州を中心に被害が発生したものの、それ以外の地域では生育・登熟がおおむね順調に推移し、全国では作況指数102の10a当たり収量536kgが見込まれている。

10月15日時点の作況指数が101以上の場合、「集荷円滑化対策」が発動される予定だ。この対策は、目標値を上回って生産されたコメを家畜のエサ用などに出荷することで主食米の値崩れを防ぐ。対策に参加しない農家は、主食用の米価が下落した際の価格補填制度が適用されないほか、来年のコメの生産



(資料) FAO Statistical Databases に基づき作成。

(注) 1961年～2004年値の3年移動平均値。

目標数量を減らされる。対策の是非はともかく、作況指数がどうなるか気をもむ時期だ。

しかし、海外と比べると日本の収量は伸び悩んでいる。FAOデータベースによれば、1961年時点で日本はコメの収量が112か国中4位だったが、2004年には14位に後退している。収量は1961年に比べ約132%に増えているが、伸び率はアメリカの204%や中国の301%には及ばない。同じように経営規模が「零細」な韓国でさえ161%に増加している。

国内で競争を作りださない外部環境にも大いに問題があるが、イノベーションを生み出せない内部構造にも分析の目を向けなければならない。

(松田恭子)